

北口駅前広場／新・折尾駅舎の外観

「日本最古の立体交差駅」を証明する「左右アンバランスな外観」にして
「歴史資料室 & 展望スペース」として活用を！

折尾のシンボル／日本最古の立体交差駅



「左右アンバランス」の外観

北九州市発表／新・折尾駅のデザイン



「左右対称」の外観

明治時代に新築、大正時代に増築、昭和時代に大改修、平成時代に解体&一部移築と
4世代に渡り変化を遂げ、現役の駅舎として使われ続ける、日本でも類稀な建造物！！

単に「デザイン的に、左右対称が美しい」ということで、
日本最古の「立体交差駅を証明する、左右アンバランスな外観」を
消し去っていいのでしょうか？！

線路が高架になり、鹿児島本線と筑豊本線のホームが平行に並ぶことで、立体交差駅で
あったことさえ忘れられてしまいます。歴史を語り継ぐきっかけすら無くなります。

「折尾駅舎」は、「折尾のシンボル」であり、「折尾の誇り」です。

東西南北から、人や物が集まることで交通の要衝となり、
公共施設や学校等が集中し、遠賀の都として繁栄しました。

外観をみただけで、誰もが日本最古の立体交差駅であった歴史を推しはかれるように、
新・折尾駅舎の外観を左右アンバランスにすることは必要不可欠！

- 立体交差駅である証明は、鹿児島本線の車中から、折尾駅舎の正面が見えることです。
(通常、駅舎と線路は平行なので、車中から駅舎の正面は見ることはできません)
新・折尾駅では、鹿児島本線からだけでなく、筑豊本線からも、駅のホームにいな
りながら見ることができ、今まで以上に立体交差駅であることが実感できます。
- 新・折尾駅舎の2階翼部分を「歴史資料室&展望スペース」として活用することで、
左右に分かれる鹿児島本線と筑豊本線の電車の行き来を見ることができ、子どもたちや
鉄道マニアだけでなく、誰もが訪れたいくなる新しい観光スポットになります。さらに、
通勤通学の時間の合間に、駅にいなりながら本物を見て学べる絶好の教育の場所になります。
- 折尾駅は駅舎だけでなく、122年間、現役で活躍をしている「日本最古の立体交差」
「赤煉瓦の連絡通路」、「古軌条のホーム支柱」など、数多くの歴史遺産があります。
これらの部材を使用して新折尾駅のデザインをしたり、「自動車道」をつくることで、
「折尾まるごと博物館」となり、学生の街・折尾ならではの駅になります。(日本唯一?)